1・「定年」に代わる言い方(2004.8)

以前何かの雑誌で読んだ記事、記事の趣旨は大体次のようなものでした。まだまだ人生これからなのに定められた年齢で第一線から退かねばならない定年制度。

「定年」という言葉には何かネガティブなイメージがどうしても付きまとうが、むしろ会社の束縛から解き放たれて新しい人生のスタートをするという意味であるはず。

何か夢が沸いてくるようなポジティブな誇り高い明るいイメージの名称は無いものだろうか。

あの時これに喚起され、本気でメモ用紙にいろいろの言葉を書き出してみました。

プラス志向、行動、２ｎｄ　出発、自立、事始、自分探し、自己実現、開放、個人、オリジナル人生、ライフワーク、元年、人生の節目、転機、フリー、人生の彩り、自分、憩い、自己表現、至福のとき、セカンドキャリア、起業、新老人、自由人、収穫期、自分の人生、第二ステージ、悠々自適、新しい世代、熟年、謳歌、満喫、自分らしいいき方、希望のつばさ、新しい視野、心を磨く、旅の始まり、自然体、豊か、現役卒年、新現役，新志向 輝き、自由表現、新人生、新自分、自由堂々、自由洋々、

いろいろイメージを膨らませたあと私がつけた名称は「つばさ自由年」になりました。

これは、真っ青な空の下を飛んでいる鳥のように、自由気ままに行きたいところに飛んでいける、ある時は野原であり、川辺、山の頂であり、海の上、雪の上、時には海を渡り海外。

このようなすばらしい夢のある時間と翼を身につけた節目ということです。

さて、皆さんはどんな名称を付けるでしょうか。

2・アテネオリンピックの感激(2004.9)

●オリンピック発祥の地で百八年ぶりに開催されたアテネ大会が数々の感動を残し、十七日間の熱戦の幕を閉じました。

在宅勤無、悠々閑閑の私にとっては、今までの人生で一番オリンピックに接し、熱戦観戦のため身体時計が完全に狂ってしまい、少し苦しさを感じる夏でした。

心配されたテロも無く終わってヤレヤレだが、男子マラソンでは男が乱入するという信じられないようなハプニングがあった。ドーピング問題ではハンマー投げの選手がドーピング疑惑から逃げ回るという腹の立つようなこともあった。

不運にもくじけず最後までベストを尽くしたブラジルの選手に拍手を送りたいのと、こんな美談の後だからなおさら逃げ回り開き直っているハンマー投げの選手には「やっていないなら堂々とションベンを出せばいいだろ」と腹が立つ。今回のアテネでは史上で最多の二十四件のドーピング違反があったとのことである。

観戦している人たちは勝者に喜び感動するだけではなく、敗者の態度の立派さや、心身ともに限界の状態のなかで最後までベストを尽くす姿からも同じように勇気と感動を貰えるのだと思う。

●今回の柔道は一喜一憂、たくさんの感動を貰った。

史上初の三連覇を果した野村選手、二連覇を成し遂げた谷選手をはじめとする各選手に感動をありがとうと言いたい。

あげるとキリが無いので一つだけ書くとすると、女子五十二キロ級の横沢選手と昨年の世界チャンピオン、キューバのサボンとの準決勝。初出場の横沢は残り一分で「有効」ポイントを相手に許したまま時間はどんどん経っていく。残り十秒を切った、六秒、五秒、四秒と誰が見ても絶体絶命、勝敗の行方は明白だ、サボンもきっとそう思ったはず。

しかし、横沢はその一瞬を見て電光石化の袖釣り込み腰でチャンピオンの体を完全に宙に浮かせ綺麗な一本勝ちで投げ落とした。

その時、時計は残り時間ゼロ、まさに奇跡を見ているようだった。勝負とはこうゆう事だと観戦していた世界中の人が思ったに違いない。

サッカーでも野球でも絶対勝てる試合、あるいは負けると思われる試合が、最後の最後の一瞬に逆転する場面をたまに観るが、これは「負けていても絶対あきらめない」「勝っていても絶対油断しない」という教訓かもしれない。

●その他にも北島選手、柴田選手をはじめとする競泳の活躍には感動しました。また、シンクロスイミング、体操、ハンマー投げ、レスリング、自転車、ヨット、アーチェリー、野球、ソフトボール、卓球、サッカー、バレーそしてマラソンの野口選手は凄かった、目標、夢に向け一ヶ月に千三百キロメートルも

走りこみ鍛錬し脚筋力をつけたそうだ。
そして、綿密に検討されたコーチの作戦と野口選手の勇気ある決断の結果だそうである。コーチ陣の作戦という点で一つ印象深いことがある、それは体操です。
最初の床では日本は最下位から二番目のスタートだった、しかしあん馬、つり輪、跳馬、平行棒と進み遂にトップのルーマニアを追う二位に浮上していた。
いよいよ最後の鉄棒、トップであるルーマニアのまさかの落下、優勝は日本かアメリカに絞られた。アメリカが出足でミスをし結局得点は伸びず、日本の米田、鹿島の演技が終わった時点で、最後の富田が８・９６２以上を出せば金である。演技に向かう富田にコーチが静かに言ったそうです「演技種目を少し変更しょう・・・着地を確実にやれ」と。
選手は長期にわたり自分の演技を練習しており、演技の順番などを体で覚えているらしく、そう簡単に演技内容を直前にぶっつけ本番で変えることは至難の技らしい。しかし、絶好調の富田はそれを見事にやってのけた。
これは、日頃の練習の中でのコーチと選手の信頼関係によるコーチ陣の綿密な作戦と選手の勇気ある決断、実行に他ならない。

書くとキリが無いので最後にもう一度、オリンピックに参加した選手の皆さん、多くの感動をありがとうございました。

３・昔の級友がループトンネルを好きな訳(2004.9)

本を書いたことがきっかけで昔の級友とメール交換がはじまった。彼女はまだ仕事に励み、ＴＯＥＩＣのレベルアップを目指してチャレンジしているらしい、どう見ても私より元気そうで文才も私より上と思われる。そんな彼女から先日味のあるメールを貰った。

昔、床に付していた母を見舞うため毎月東京と塩沢(長いトンネルを抜けた雪国)を列車で往復していたが、帰路はかならず塩沢から水上までわざわざ各駅停車を利用したとのこと、それは三国山脈を抜ける清水トンネル(上越線)がループトンネルになっており、このトンネルが好きで、好きで……とのことです。その訳を聞くと、
「土合を過ぎて小さなトンネルを二つ超えると、やがて進行方向右手はるか眼下にレールが二本、列車が走っている方向と直角方向に白く光ってのびているのが見えてきます。
それはまもなくこの列車が通るところ、私の『未来』がきっと存在するであろうところ、と思う間もなく列車はまたトンネル。このトンネルは前の二つよりは少し長く、昔トンネルを創ろうと思った人や工事をした人のことなどがふっと頭をよぎる頃、もうあたりは明るくなり列車はトンネルを抜けて私はあの『未来』

を『今』として走っているのです。
振り返って（空いているので列車の最後部の窓から見るも可）あの数分前通った所を確認しようとしても、そこには山があるばかり。かすかに電柱？　などで線路があるところの想像は付くものの『レール』そのものは見えない。『過去』はあったのか？　超えてきた『山』とは何なのか？
　田舎の母を見舞った帰路、閑散とした列車の車窓を見ながら、これから生きねばならない将来のことや昔のことに想いをめぐらせている姿、ふと現実に戻り改めて自分の人生について思い、これからも明るく生きようと微笑んでいる姿を想像し感銘しました。

　ふと二十五歳の時にノートの端に書いた自分のメモを思い出した。それは新聞記事の「髪を染める女のかなしさ」を読んでの感想。
　髪を染めていてフト今は亡き母を思い出し、昔母に投げかけた言葉を思い出している姿、四十八歳にもなった一人の女性が想い出の中の母に「かあさんごめんなさい」とわびずにはいられないとはなんとも味がある。人生は繰り返されている、少女から妻に、母に、そして次の世代にバトンを渡して世を去っていく。
　誰もがいつの世もこれをくりかえす。しみじみと人生というものを考えさせられる。

4・大久保さんが言いたい大切なこと(2004.12)

　ホームページを作成してから約三ヶ月経ち師走中旬、今年も大分押し迫って来た。テレビのあるトーク番組を観ていて一年前のおなじ番組のことをふと思い出した。野球界で活躍したデーブ大久保さん、その明るい性格に加え彼は思ったことを割合単刀直入に述べ、それがまた的確であるのでファンを魅了するようだ。彼は学校や講演会など大勢の前で話す機会も多いらしく、たぶんその多弁と雄弁で聴いている人を引き込むのでしょう。番組の最後の言葉、彼が若い人たちに言いたいこととは何かというと、

1．嘘をつかない
2．言い訳しない
3．人のせいにしない
4．親を大切にする

　要するに伝えたいことはこのことだけだそうです。観ていて感じたことは、どの職業、ジャンルでも突き詰めていくと、大切と言われることは極めてシンプルで基本的なことであると思いました。またシンプルの中に深い味わいがあります。
　公明正大、礼節献上、感謝報恩というようなことをよく聞き、どこの会社でも似たようなことを壁に掲げているのを良く見ますが、これらは確かに基本的なことで、その積み重ねや継続が大事なのだと思います。

（追記）

私が現役だった頃、中近東のプロジェクトで何度も長期出張をし、現地の伊藤忠商事事務所、駐在員に大変お世話になりました。年末のある朝のテレビ番組で、私が尊敬する経営者の一人である丹羽会長が次のような話をしていました。

・会社の遵奉すべき精神は、清く、正しく、美しくであること。
・商売人はいかなる事があっても嘘をつかない。
・いかなる事でも経営トップは責任がある、経営のトップは人のせいにできない。そのためには愚直なまでに日常努力するという経営者の生活行動で示すことが大事。役者は着飾り、厚化粧した正面だけで演技するのではなく、背中で演技し感動を与えるようになり名優となる。
・エリートとは謙虚で高い倫理観を持ち、企画し実行し、責任を取れること。

改めて今年の政治、経済、スポーツ界を振り返るに嘘、隠匿、詐欺、傲慢、無責任がたくさんあったように感じます。

5・ある俳優の話を聞いて(2004.12)

先日、上記と同じトーク番組で俳優の仲代達也さんが出ていましたが、髭を綺麗にすり落とし大きな目でひょうひょうとし、重厚で力強くも優しい声、私の好きな俳優の一人です。

無名塾を奥さんと立ち上げ、仲代氏が鞭、奥さんが飴、まさに二人三脚、戦友のような関係で多くの俳優を指導した話。

多い年は千人ぐらい応募する中から毎年五人しか採らないが、上川隆也（ドラマ大地の子の主役）を入塾テストで落としてしまったが、大地の子の撮影が終了したパーティでうちあけられて思わず土下座をした話。人が人を選ぶこと、その素晴らしい資質を見抜くことは難しいとしみじみ話していました。また、こうも言っていました。もしかして彼も落とされたことをバネにし、ひたすら信じた道を突き進んだから結果が出たのかもしれないと。

「俳優は何が一番大切と思いますか」の質問に「大切なものはいろいろある訳で・・技術、心など。心は誰でも持っている訳だがお客さんに如何に伝えるかが一番大事」と言っていました。「心を相手に伝えること」いい言葉だと感じます。これにより相手に勇気を与え、幸せにもできます。また自分もきっと幸せになれるはずです。

俳優養成で大事なことは、人様の子供であるが「そうではないだろう！」と厳しく叱ることである。しかし、亡くなった戦友の奥さんの遺言「あなたネ、いくら叱っても才能のない人は伸びないし、ぜんぜん叱らなくとも才能ある資質豊かな人は伸びますよ」で、これからは優しさでいこうかなとも思う、と微笑みながら話していたのが印象的でした。